

令和6年度 第2回 都田中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月18日（月） 14時00分から15時12分まで
- 2 開催場所 都田中学校 被服室
- 3 出席委員 小林 宗吉、佐藤 元久、下原 直美、下村 優子、神間 郁子、吉田 恵子
高須 里美、小出 慎一郎
- 4 欠席委員 長谷川 卓人
- 5 オブザーバー 谷野 弘勝（都田協働センター所長）
- 6 学 校 生熊 和広（校長）、鈴木 貞良（教務）、村松 由紀子（教諭）、
尾田 由利恵（教諭）、中村 光明（教諭）、杉村 空（教諭）、松島 未歩（教諭）、
丹所 宏貴（教諭）、倉田 洸輔（教諭）、加藤 都海（教諭）、内山 朋行（教諭）、
野澤 直樹（教諭）、仁尾 且樹（教諭）、高木 志穂（養護教諭）、
佐藤 奈帆（CSディレクター）
- 7 教育委員会 清水 悠（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 佐藤 奈帆
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、下村委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）グループ別研修「部活動の在り方と休日の過ごし方」「生徒が休日を充実させるためにできること」について
- （2）全体研修 発表及び今後の方向性について
- （3）報告

12 会議記録

司会の下村委員から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「部活動の在り方と休日の過ごし方」「生徒が休日を充実させるためにできること」について、グループ別で20分間の話し合いが行われた。

（2）全体研修 発表及び今後の方向性について

【1グループ：小林委員、吉田委員、中村、野澤、仁尾、谷野】

- ・部活動の在り方として求めることは、放課後の居場所になり、子ども同士の繋がりになること。
- ・校外で行う活動では、やれる事・子が限られてしまう。
- ・結果か人間関係か、何を求めるかの違いで指導者ごとの指導方針が変わってくる。
- ・協働センターや図書館の地域のコミュニティに期待するが、現状は生徒が集まらず生徒同士繋がらない。
- ・今後の課題としては、放課後に協働センターを活用する、部活動の括りをなくし地域クラブとしての

活動を充実する。例えば、書道クラブとして吉田さんからご指導いただく。

【2 グループ：佐藤委員、下村委員、村松、尾田、杉村】

- ・令和8年度から部活動が地域移行するが、学校側が地域住民に求めているものは何か伝わっていない。学校側からの方針が出れば、地域も動きやすいのでは。
- ・学校部活動は指導以外にも大会運営や審判などの仕事があり、全てを地域の人たちが急に出来るわけではないので、地域への実態調査が必要。
- ・先行して行っている他地域の事例を参考に出来ると良い。

【3 グループ：下原委員、小出委員、内山、松島、高木】

- ・土日の地域クラブは、部活動に入部していても参加自由なため、大会への熱意ややる気はバラバラ。孤独を恐れて周りに合わせて参加する子も。
- ・土日が完全地域移行になると、教員の目が届かないところで人間関係の変化があるかもしれない。地域クラブでの悩み解決には教員の力が必要になるのでは。
- ・地域クラブへの移行で利点は、参加自由なこと、土日の生活リズムが整うこと。

【4 グループ：神間委員、高須委員、丹所、倉田、加藤】

- ・男女別の部活動を男女混合にするのはどうか。
- ・人数不足で大会に出られない部活のオープン参加も可能だが、記録が残らないためモチベーションの低下が懸念される。
- ・部活動を廃部にするのではなく休部とし、人数が確保出来たときに再開しやすくする。

(3) 報告（下村学校支援コーディネーターからの活動報告）

コロナが収まり、地域の方々からの学習支援も今年度で3年目となった。吉田委員からの書写指導も3年目となる。専門性のある指導が受けられ、生徒をとにかく褒めて下さるので、子ども達にはとても良い時間となっている。挨拶がしっかり出来るようになり、書道が苦手だった子も最後まで諦めずに書くようになり、粘り強さが身についた。

職業体験では様々な企業に声を掛け、地域との繋がりを作った。

今後の活動予定としては、都田中トイレの暖簾づくりボランティア募集や、自転車講習を行っていく。

その他連絡事項

学校より、次回会議は、令和7年2月18日（火）14：00から都田中学校被服室で開催する旨の報告があった。